

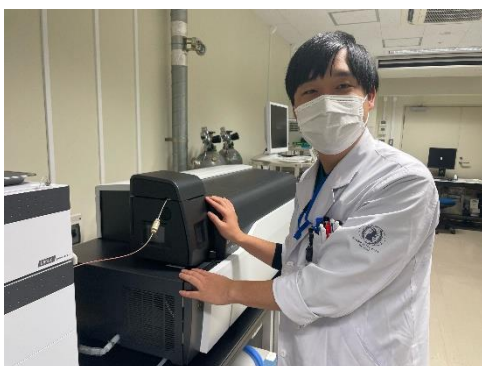
## 子どもたちの健康を守る新生児マススクリーニングへの取り組みと、 研究と臨床の架け橋 -Metabolizumo project-

医学部附属病院 講師 小林弘典  
検査部長 矢野彰三

島根大学附属病院検査部は、診療において重要な検査機能を担う縁の下の力持ちとして地域医療への貢献するため、また、患者さんに安心して検査を受けていただけるよう日々取り組んでいます。今回はその中の取り組みの1つとして、島根大学検査部の特色の1つである新生児マススクリーニング事業への関わりや、質量分析計を使った検査や研究の取り組みである**Metabolizumo project**を紹介します。

新生児マススクリーニング(NBS)は約50年も続く公的検査事業で、早く見つけてあげて治療をすることで、赤ちゃんを命の危険や障がいから守ることを目的としています。当院は島根県から依頼を受けて、島根県で生まれてくるすべての赤ちゃんを対象に25種類の病気について検査しています。全国の大学病院の中でもNBSを行っているのは島根大学病院だけです。また、検査法や治療法の進歩によって検査出来るようになった9種類の病気について、2021年から「臨床研究」という形で検査を提供し、生まれてくる赤ちゃんの健康を守る取り組みを拡大し、実際の成果も出てきています。

また、その他にも、当院検査部では質量分析計という最新の分析機器を早くから導入しています。この機器を使って、これまで臨床現場で出来なかった検査等を行うことで、臨床での課題解決や臨床検査技術の発展を目指す取り組みである「Metabolizumo project」を立ちあげ、すでに5年目を迎えました。ここでは、基礎医学研究者と臨床医が一緒になって研究に取り組んでおり、若い臨床医や大学院生の教育やサポートにも力を入れています。



←検査部内で  
質量分析を行う  
大國技師

### 追加の新生児 マススクリーニング検査の ご案内

当院では、通常の新生児マススクリーニング検査に加えて、右記の検査を追加して行うことができます。いずれも早期発見、治療を行うことが有効であると期待される病気です。

重症複合免疫不全症(SCID)  
ADA欠損症  
B細胞欠損症  
ムコ多糖症 I型、II型  
脊髄性筋萎縮症(SMA)  
ボンベ病  
副腎白質ジストロフィー  
ホモシスチン尿症3型

本研究に関する  
お問い合わせ先 島根大学医学部附属病院検査部 小林弘典  
電話 070-50505214 検査部検査センター検査部門

検査費用等については、病院窓口までお問い合わせください。

